

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	思いや意向の把握に努めている。センター方式のC-1-2シート等書き込むことで、利用者一人ひとりの意向の把握に努めているが、時間の経過による変化が記入できていないことがある。また、担当者が中心に作成するため、他スタッフの意見が反映されにくい。	①本人、家族の思いや意向をしっかりと聴く。 ②利用者一人ひとりの心身の状況、意向などを全員が記入できる。 ③時間経過や病状などで変化があった箇所については、その都度記入して、全員で共有できる。	①担当者会の有効利用。必ず本人、家族と話し合い、思いや意向の把握を行う。 県外在住のキーパーソンとは、電話又は文書で意向等を確認する。 ②全員が記入したシートを確認して、担当者は記入を行う。 ③申し送り、担当者会、職員会等で新たな気づきや変化が報告された時は、シートに追記する。	9ヶ月
2	10	運営に対する、利用者、家族等の意見の聞き取りは主に、運営推進会議や担当者会を通して行われている。反映できるよう努めているが、家族会が機能していないため、気楽に意見が言える場が少ない。	①家族会を開催できるよう、場を設ける。 ②家族会ででた意見を議事録に残す。 ③家族会の意見を運営に反映させることができるよう、努める。	①運営推進会議の前後に家族会を開催できるよう調整する。来てみようかと思えるイベントなどと絡めて、多くの家族に参加してもらえるよう取り組む。 (10月25日の運営推進会議の後、開催できた。次回は12月19日予定。)	1ヶ月
3	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援は、入居時、看取りの指針を説明をし、同意を得ている。看取りの要望がある場合は母体法人の病院との連携で、対応を検討が可能であり、事業所内では、看取りに関するミニトレーニング等をしている。 経験のない職員が看取りに取り組めるほどには、知識や技術、環境が整っていない。	①母体法人の病院に限らず、訪問診療や訪問看護、訪問薬剤、グリーンケアに関することまで、社会資源を理解できる。 ②ミニトレーニングを活用して、知識を増やせる。 ③施設外研修に参加ができる。	①管理者が町ほけん福祉課や地域包括支援センターなどから、情報を得る。 ②ミニトレーニングを継続する。 ③スタッフが順次、施設外研修に参加する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月